

これまでの取組、現状と課題

③ 構想区域の現状および課題

令和7年に向けた病床数（定量的基準により補正）を

165

~~令和6年7月1日時点の定量的基準等により補正した病床数は~~、医療需要のピーク時である2030年と比較すると急性期が270床の過剰となり、高度急性期、回復期、慢性期はそれぞれ21床、104床、34床の不足となっている。また、総病床数は、~~128~~床の過剰となっている。一方で、市内基幹病院の一つである松阪市民病院は、今後、済生会松阪総合病院による指定管理者制度を活用しつつ、回復期中心の病院へと機能転換およびダウンサイジングする予定である。新型コロナウイルス感染症の拡大等に伴い足踏みしていた再編の動きを着実に進め、同病院の機能転換途中および転換後に区域内における救急医療やがん、脳卒中、急性心筋梗塞等の政策医療への対応を行う体制が確保できるよう、各医療機関の担うべき役割や連携の状況等を逐次慎重に確認していく必要がある。